

## 第64回筑紫地区農業祭



太宰府天満宮で12月12日に、第64回筑紫地区農業祭が行われました。管内の農業関係者や、行政関係者など約200名が参列し、農業の発展と五穀豊穡（ほうじょう）を祈りました。

祭典では、巫女（みこ）による神楽奏上や参列者の玉串拝礼などで収穫の礼を尽くしました。

式典では、農業振興に貢献した功労者6名を表彰。笑顔で表彰状と、記念品を受け取りました。功労者を代表して筑紫野市の藤井利春さんが「この受賞は非常に励みになる。今後も農業に精進していきたい」と挨拶しました。

JAの白水清博組合長は「農業祭は64年の長い歴史があります。後世に伝えていくため、今後も農業振興に取り組んでいきたいです」と話しました。

### 【受賞した功労者】

川辺満子さん（大野城市）、財津友一さん（太宰府市）、藤井利春さん（筑紫野市）、砥綿英彦さん（筑紫野市）、井上壽孝さん（春日市）、坂井正之さん（那珂川市）

## 第6回 JA 筑紫ふれあいしめ縄づくり体験



JA筑紫は12月14日、JA本店で「第6回JA筑紫ふれあいしめ縄づくり体験」を開きました。これは、JAが取り組むふれあい活動の一環。JA管内の農家の方など3名を講師に招き、参加者30名と輪飾り型のしめ縄を作りました。

初めてしめ縄づくりに挑戦した参加者は「日本の伝統であるしめ縄づくりを体験でき、とても勉強になりました」と笑顔で話しました。

## 組合長と児童がおにぎりを味わう



JA筑紫の白水清博組合長とJA職員は16日、春日市立大谷小学校を訪れ、新米を使ったおにぎりを児童と味わいました。お米は、白水組合長や職員が年間を通して児童へ米作りを教え、10月下旬に稲刈りをした「元気つくし」です。児童は一つひとつ大切におにぎりを握りました。

待ちきれない様子でおにぎりを頬張った児童は、「いつも食べているお米よりも甘くて美味しい」と驚いていました。

児童から白水組合長へ、米作り指導のお礼として、リコーダーの演奏や合唱、感想文をまとめた文集を贈りました。白水組合長は「米作りの授業を通して、自分のエネルギーとなってくれるお米の命の大切さを知ってもらえたら嬉しいです」と笑顔で話しました。

授業は、5年生を対象とした「総合的な学習の時間」の一環。JAは児童の食農教育をサポートする目的で、20年以上関わっています。

## 子ども食堂へ寄付



JA筑紫は12月24日、大野城市のNPO法人チャイルドケアセンターへ教育ローン成約件数に応じた寄付を行いました。贈呈式では、JAの白水清博組合長が、法人の大谷清美代表理事へJA農産物直売所ゆめ畑商品券10万円分を手渡しました。

JAは、食農を通じたJAらしい地域貢献活動として子ども達の成長に貢献したいと、教育ローンの成約件数に応じた同法人への寄付を3年間続けています。今回は、2018年9月3日から2019年4月26日までの「めざましごはん教育ローンキャンペーン」の成約90件分です。

法人は、子育てのための情報とネットワークづくりをサポートする団体。JA管内5市に38カ所ある「子ども食堂」の支援を行っています。この取り組みは、ボランティアが地域で暮らす大人や子どもを対象に、食事の提供や交流する場を設ける「居場所づくり」の一環。

大谷代表理事は「商品券は、食堂に来る子ども達の笑顔に繋げるため、大切にに使わせていただきたいです」と話しました。

白水組合長は「地域の子どものために、この支援を続けていくことが重要です」と笑顔で話しました。

## 心をこめて作った米を味わう



筑紫野市京町保育所は12月25日、JA筑紫営農生活部職員と一緒に新米のおにぎりを味わいました。米は、JA職員が園児に指導しながら発泡スチロール箱で栽培した稲で、10月末に稲刈りをしたもの。園児は両手いっぱいになるくらいのおにぎりを一生懸命一つひとつ大切に握りました。また、育てた米とは別に、玄米も用意し、白米と食べ比べました。園児は「お米が甘くて美味しい!」「玄米は噛めば噛むほど味が出てくる!」と笑顔を浮かべていました。

おにぎりを試食後、園児はJA職員へ指導のお礼として手紙と、育てた稲で作ったしめ飾りを贈りました。

保育所の職員は「この経験を通して、農家の人の大変さや、食の大切さを少しでも知ってくれたら嬉しいです」と話していました。

## ブロッコリー新品種「こんにちは」出荷最盛



JA筑紫ブロッコリー部会では、新品種「こんにちは」の出荷を積極的に行っています。収穫後は規格ごとに箱詰めし、県内の市場や直売所「ゆめ畑」に出荷しています。

2019年産から試験的に栽培し、生育はおおむね順調。50~60aを作付けし、1月下旬まで出荷する見込みです。

「こんにちは」は、部会が栽培している「ピクセル」「おはよう」よりも遅い時期の12月下旬から収穫。他品種と一緒に栽培することで、出荷期間を延ばすことができます。

JA農業振興課の担当職員は「20年産は、更に作付面積を増やし、生産者の所得増大に繋げていきたいです」と話していました。

## 年金友の会 会員2万人達成



JA筑紫「年金友の会」は、10月末で会員2万人を達成しました。会員特典の行事やイベントの充実、会員からの新会員紹介やキャンペーンを活かした推進などの取り組みが成果を上げました。

金融共済部の藤野憲成部長代理は「これからも様々な世代の方が楽しめる企画を準備して、仲間づくりの場の充実に努めたいです」と話していました。